

田中康夫

今月の憂いコト

緊迫するウクライナ情勢から、
右傾化する日本、
子宮頸がん予防ワクチンから、
『ダラス・バイヤーズクラブ』まで！

東京・二子玉川にあるクリエイティブスペース
「カタリストBA」の窓際のテーブルで、
8階からの景色を眺めながら対談を始めた田中・浅田両氏。
春先の多摩川周辺ののどかな風景とは裏腹に、
緊迫する世界情勢と右傾化する日本の現状を憂えた。

Photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂国呆談

SEASON 2 VOLUME 46

緊張の度合いを増す ウクライナ情勢はどうなる？

浅田 ソチ・オリンピックも終わらぬうちから、ウクライナ情勢が一挙に緊迫、ヤヌコヴィッチ親露政権が崩壊したかと思いきや、親欧政権に従わない勢力を支持してロシアが軍事介入、まずはウクライナの一部だったクリミアをロシアに編入した。

田中 敗戦後の日本がサンフランシスコ講和条約を受け入れ、国際社会に復帰した「戦後レジーム」の原点ともいえるチャール・ルーズベルト・スターリンの三者会談が行われたのがクリミア半島のヤルタだ。究極的には、ブラハが首都で工業国のチエコと、ウィーンに隣接するブラチスラヴァが首都で農業国のスロバキアに冷戦後の1993年に分国したチェコスロバキアと同じく、EU側とロシア側に分轄される運命にあるのだろうか、時間はかかるね。

クリミア半島のロシアのやり方は奇襲攻撃的。国際法的には認められない。ただし、現時点ではごくわずかの犠牲しか出ていない画期的な、無血革命、でもある。逆にキエフでの親露政権打倒時には、極右勢力が武装勢力と結託して多くの一般市民が巻き添えになった。しかも、ネオナチ政党スボボダの創設者が新政権の安保部門の最高責任者だから、欧米側としても悩ましい。ウクライナの大統領代行も首相も最高議会も統治能力に問題がある。

他方で、クリミア自治共和国のウクライナからの独立とロシアへの編入を問う3月16日の住民投票にはアメリカ、イタリア、フィンランドをはじめとした23か国から126人の選挙監視団を受け入れて、すべての投票作業を公開し、州都シンプフェロポ

リのプレスセンターで会見も許したあたり、一枚も二枚も上手だよ。

ロシアの黒海艦隊の拠点もあるウクライナ南部のクリミア半島はもともとロシア人が多く暮らしていた地域。自国民保護というロシアに大義名分がないわけではない。とはいえ、歴史的にはロシア人がウクライナ人を搾取してきた長い歴史があるわけですが、緊張感を高めるために異なる民族を移住させた旧ソビエト連邦時代の負の遺産が顕在化しているともいえる。例えばアゼルバイジャンでも、隣のアルメニア人をナゴルノ・カラバフ地区に移住させ、人種的にまだら模様をつくり出した。ソ連邦が崩壊する過程でアゼルバイジャンは混乱状態に陥るけど、今回もウクライナで露呈した。テロが統廃する新疆ウイグル自治区に漢人が暮らして統治する中国とも似ている。

こうした中、即座にドイツのアンゲラ・メルケル首相がロシアのプーチン大統領に連絡会議設置を提案し、彼も同意した。機能すれば大きな成果になると思っただけだが、その後は膠着状態だ。

浅田 ウクライナ出身のフルシチョフがソ連の最高指導者だった1954年に、それまでロシア領だったクリミアをウクライナ領に移した。プーチンはそれを元に戻しただけだと思ってるんだろうね。

もうソ連はないんで、こういう強引な国境変更は国際法違反だけど、アメリカは強面の反応を見せてるもの、実際は限定的な制裁くらいしか手がない。プーチンは一応ヤヌコヴィッチ政権の正統性を主張してるものの、クリミアが手に入ったことだし、

あとは適当なところで妥協する用意があるんじゃないかな。

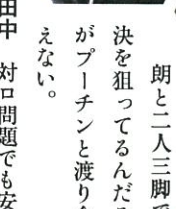
旧ソ連崩壊後、グルジアのロシアからの独立を西側が応援したけど、そのグルジアの覇権を恐れて南オセチアやアブハジアがロシアに頼るっていう複雑な構図が生まれた。今回もそれと似たところがあるね。

田中 多分にプーチンには強権的なところがあるけど、今回の問題もそういう両義性を把握しないと公正な判断はできない。

浅田 ところで、ウクライナ問題が緊迫する前から、ロシアの



反同性愛政策を理由に西側首脳の間でソチ・オリンピック開会式をボイコットする中、安倍晋三首相は出席して大歓迎されたけど、そういう複雑な状況を見据えてのことなのかどうか。親分の森喜朗と二人三脚で北方領土問題の解決を狙ってるんだろうけど、あの連中がプーチンと渡り合えるとは思えない。



田中 対ロ問題でも安倍政権は難しい局面だね。欧米と歩調を合わせれば、別荘にまで招いてくれたプーチンの機嫌を損ねる。といって、クリミア併合を黙認すれば、尖閣諸島や竹島の問題にも跳ね返ってくる。

世界からも批判が噴出。 日本の右傾化が止まらない？

浅田 ロシア問題はともあれ、韓国や中国との緊張も高まる一方で、アメリカさえ当惑を隠さない。従軍慰安婦問題をめぐる「河野談話」は継承するものの、元慰安婦

の証言に裏付けがあったか、また韓国政府とのすりあわせがなかったか再検証するって、二枚舌にもほどがあるっての。

田中 宮澤喜一政権下の1993年に官房長官として河野洋平がまとめた談話は、日韓間で当時もホットな状況だった慰安婦問題を沈静化するための政治的、外交的な談話。韓国側の意向を確認しながら作成したのは自明の理でしょ。

案の定、ハーグでの核安全保障サミットの際に日韓首脳会談を実現せよ、とアメリカから言われて、その前提となる「河野談話の見直しは考えていない」発言を衆院本会議で首相が明言する展開となった。見直しを待望していた一部の皆さんは「失望した」と怒り出すかと思いきや、音なしの構え。無論、我々とは対極に位置するけど、君たちの信念と覚悟はその程度なのね、とデイスリたくなるよ(苦笑)。

ともすれば「左翼の側」は、可哀相な慰安婦だった老婆たちという感傷にふけていて、他方で「右翼の側」も、喜んで金を受け取っていた慰安婦や、優しく接した兵隊さんもいたと同じく情緒的。双方共に単なる主観的なエピソードにすぎず、歴史の客観的史実ではないのが問題だ。

浅田 あの軍国主義体制の下で、売春業者が勝手に営業してただけだなんて話は、とても通らない。証拠書類が残ってなかったにせよ、少なくとも軍の暗黙の了解があったのは確かだよ。それを認めて謝罪してきただけで、いままさり返すなんてどうかしてる。

田中 「お前はもう死んでいる」という『北斗の拳』の決めゼリふを借りれば、「日本はすでに負けている」んだよ、情報戦で。ワシントン・ポストからCNNやAP通信ま

で、大半の海外メディアは靖国神社を「Yasukuni War Shrine」と表記している。なのに日本は「Peace Shrine」と言い換えるよと抗議もせず今日に至っている。訂正を求める署名活動を始め面々も現れない。

浅田 靖国神社は、天皇のために戦死した官軍兵士を祀るために明治時代につくられたもので「War Shrine」そのものだよ。

実はA級戦犯は戦死者じゃないから、その理屈からしても合祀はおかしかったんだね。

田中 それにしてもウォール・ストリート・ジャーナルやワシントン・ポスト、ル・フィガロと保守系と目されているメディアが総じて、日本は「歴史修正主義」リヴィジョニズム」に走っていて修復不能と社説で懸念を表明しているのは深刻だよ。フィナンシャル・タイムズは、イラストの首相の姿も含めて最も辛辣だった。

「日本が侵略しなかったと言ったことは今まで一度もない」とは国会答弁の定番だけど、日本が侵略したと答弁したことは一度もないわけで、すると「侵略」という定義は国際的にも定まっていない」という答弁が本音なのね、と思われている。

実は意外にも宏池会というハト派出身の菅義偉官房長官を除けば、官邸内外の反・自虐史観論者たちが国内外で自画自賛な自慰史観ともいべき発言を繰り返して、結果として安倍政権のみならず日本全体への失望を生み出し、孤立化を招いているんだから、ホントに自虐史観論者だよ（苦笑）。

浅田 まったく、安倍周辺の極右イデオログの妄言には驚くばかり。安倍礼賛の本を出してきた小川策太郎ってのが「VOICE」3月号に「これだから本場の勝負だ」とってエッセーを書いている、そのナルシシス

ティックな陶醉ぶりは驚くべきものだよ。

安倍政権が成立したときはその「奇跡」に涙が出たけれど、いつまでも涙が止まらないので、これは「靖国神社の英霊の御霊」

の嬉し涙なんだと気づき、ただちに参拝して「安倍政権への御加護」を祈った、それから一年の節目に靖国を参拝する安倍総理の映像を見ながら「有難くて嬉しくて」ならなかった、と「VOICE」はPHP研究所が出してるわけだけど、もはや創業者の松下幸之助の合理主義のかけらもない。まあ彼は自称・文芸評論家だからいいとして、もっと過激なことを言ってる長谷川三千子や百田尚樹が依然としてNHKの経営委員を務めてるってのは、海外から見ると異様だよ。

田中 二言目には現行憲法は占領下で押し付けられたと言うけど、54歳の誕生日を迎えた皇太子も、「今日の日本は……日本国憲法を基礎として築き上げられ……平和と繁栄を享有しており……今後とも憲法を遵守

昔、中曽根康弘元首相が
広島の原爆被爆者の病室で
「病は気から」って
言ったのを思い出す（苦笑）。（浅田）

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。



する」と述べた。同じく傘寿を迎えた昨年未末に天皇も「連合国の占領下にあった日本は、平和と民主主義を、守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行って、今日の日本を築きました」と。実に明々白々なメッセージでしょ。

改憲派の皆さんは最近、解釈改憲でもOKと日和ってるけど、それは正々堂々の改憲を自己否定する話（苦笑）。しかも象徴天皇を国家元首にせねばと息巻いてるけど、当の天皇家が現行憲法を遵守せよと述べているのだから、世が世なら切腹か斬首でしょうに（涙）。

長谷川や百田の発言だって現行憲法に言論の自由や基本的人権が保障されているからお咎めなく済んでいるのをありがたく思うべき（笑）。勝てば官軍、負ければ賊軍が格言の日本は敗戦で「賊軍」になった。無条件降伏し、ポツダム体制のもとに東京裁判を受け入れ、サンフランシスコ講和条約を結ぶことで国際社会への復帰を果たし、

国連に戻ることができた。悔しくとも、まさにジョン・ダワーの言う、「敗北を抱きしめて」生きていくしかない。なのに、東京裁判の是非までも蒸し返したら、世界中を敵に回す、まさに夜郎自大な島国根性。ただ、薩摩と長州が画策した尊王攘夷とは違って、今は尊王である天皇と、攘夷であるアメリカが口を揃えて「日本よ、大人になれ」と諫言しているんだ。

浅田 右翼は強い主体であろうとするんだから、被害者意識でヒステリックに泣き喚くんじゃなく、自国の加害責任を堂々と認めることから出発すべきでしょう。

朴権恵大統領の父の朴正熙は、高木正雄という日本名を与えられ、日本の傀儡国国家だった満州、そして日本の士官学校でエリート将校として育てられた。戦後、大統領になって独裁体制を敷き、65年の日韓基本条約および請求権・経済協力協定で日本への損害賠償等の請求権を放棄するかわりに経済協力を取りつけ、それも重要な原資として経済成長をなしたとげた。その娘である朴権恵がことさらに反日のポーズをとらざるをえない事情がいわかつてやれよ、と。

子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨が再開？

田中 被害統出の子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨を厚労省は再開する予定だったが、再調査を理由にひとまず延期となった。なのに日本産科婦人科学会、日本産婦人科医学会、日本婦人科腫瘍学会が即時再開を強硬に求めている。連中が言うには、接種後、2週間以内の痛みは副反応かもしれないが（被害や副作用と呼びずにあえてボエムな逃げ言葉を使うのも問題）、それ以降の痛みは「心身の反応」だって（苦笑）。



心の持ちようだとはお前は祈禱師か！その公的会合での暴言をメディアは無批判に垂れ流してんだから呆れる。

「子宮頸がんワクチン」という名称自体が羊頭狗肉。子宮頸がんに至る可能性をたらず「HPVⅡヒトパピローマウイルス」に感染するのを予防するワクチンと正確に呼ぶべき。しかも100種類以上のHPVウイルスの中でグラクソ・スミスクラインと米国メルク日本法人MSDのワクチンが効果を持つのは僅か2〜4種類。おまけに日本人に多いウイルスへの有効性は両社とも効能書きに記していない。生理も性交も未経験の児童生徒に年間1000億円も投じる前に、イギリスのように成人女子も含めて検診を充実したほうが予防医学でしょ。

浅田 昔、中曽根康弘元首相が広島島の原爆被爆者の病室で「病は気から」って言ったのを思い出す(苦笑)。そもそもこのワクチンは子宮頸がんの一部しか予防できないんだし、その割に、痙攣とか麻痺とか、かなり重篤な副作用が出てんだから、当然見直すべきだと思うね。

そんなことより、インフルエンザのワクチンや特効薬を大量に供給する準備を整える方が先決だよ。今年の冬はまだ大事にいたってないけど、中国ではトリ・インフルエンザのいろんな変異体があちこちで感染を起こしてるんで、あれが本格化したら大変なことになる——というか、いつかは本格化するに決まってるんだから。儲けたいなら、そういう役に立つところで儲けろっての。

ついでに言えば、ノバルティスファーマのディオバン(高血圧の降圧剤)の例が示す通り、製薬会社と大学の癒着の中で、不正なデータ操作によって薬効が誇張される

といった例も少なくないらしい。にもかかわらず、世界中で高価な薬が使われ、製薬会社に莫大な利益をもたらしている。

ぼくの老母も82歳で脳梗塞で倒れたあと抗うつ薬を処方されたけれど、そりや多少はうつになって当然でしょう。とはいえ、それで少しでもうつが軽減されるかと思うと、家族としてはなかなか断れない……。そうやって世界中で大量の抗うつ剤が消費されてるわけだ。

田中 日本に限った話ではないけど、製薬会社もゼネコン同様に公共事業体質。福島県立医大の鈴木真一が、「甲状腺がんは最短で4、5年で発見されるのがチエルノブイリの知見。今の調査は(震災以前から)もともとあった甲状腺がんを把握している」と、福島原発事故による放射線の影響を否定する始末。逝ってよしのアホ阿呆だ。

浅田 まったく。
田中 そう言えば、アカデミー賞授賞式を見てたら、浅田さん推薦の『ダラス・バイ



「お前はもう死んでいる」という『北斗の拳』の決めゼリぶを借りれば、『日本はすでに負けている』んだよ、情報戦で。(田中)

ヤーズクラブ」のマシュー・マコノヒーが主演男優賞、ジャレッド・レトが助演男優賞を射止めたね。

浅田 映画自体、1980年代のAIDSクライシス初期に、感染者や患者が資本主義国家の「生権力」(哲学者フーコーの用語)——身体や生命を直接とらえる権力といかに闘争して生き延びたかを描く、ある意味で爽快な作品だよ。早い時期にHIVウイルスが特定され、AZTのような薬もつくられた。それはいまでも多剤併用療法の一環として使われている。ただ、最初はその薬効を確認するため、AZTと偽薬をアトランダムに投与して統計的に比較する調査が行われた。患者にとっては生死にかかわる問題なのにモルモットとしてロシアン・ルーレットをやらされるようなもの。余命30日と言われたロン・ウッドルーフって男(マコノヒー)がそれを断固拒否し、自分で世界中から未承認薬の類をかき集めて会員制クラブで頒布し始める——ただし、市

民運動的な偽善のかけらもない、むしろドラッグ・ディーラー的なノリで。しかも、彼はゲイを蛇蝎(だくたつ)のように嫌うマッチョなんだけど、それでは商売に差し支えるんで、女装のオネエ(レト)と組む。この二人の間に不思議な愛情が生じるころはなかなか面白い。で、絶えず弾圧されながらもなんとか営業を続け、余命30日と言われてたのが7年も生き延びるわけ。ウッドルーフは実在の人物で、映画化の話は彼の亡くなった92年からあったんだけど、マコノヒーが脚本に興味を示し、ジャン・マルク・ヴァレ監督がそれを実際に撮るまで、20年以上もかかったわけだね。

ちなみに、この男は岡山の林原生物化学研究所まで来てインターフェロンを仕入れたたりする。あそこは研究開発に惜しげなく資金をつぎ込み、株主資本主義の波のなかで粉飾決算を理由に破綻に追い込まれたわけだけど、こんなところで再評価されるとは。

田中 コンプライアンスという事なかなれない铸造を、良い意味で超越していたんだ。

浅田 しかし、小保方晴子のSTAP細胞に関する論文が撤回に追い込まれつつある事件を見ると、問題は基礎研究にまで及んでるみたいだね。競争の激しい分野では論文の撤回は珍しいことじゃないけど、そのこと自体、過当競争が研究を歪めてる兆候じゃないか。まあ彼女の場合は博士論文にもコピー&ペーストによる部分があるよう

で、そもそも問題外だけだ。
田中 彼女も彼女だし、見抜けなかった共同研究者や上司も劣化の極致でしょ。死語となりかけていた倫理学を学び直さないと福岡ハカセも交えて、日米チャット鼎談をしたいくらいだね。

浅田 彰

あさだ・あきら●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。

